

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム夏桜(1F)	評価実施年月日	平成19年 7月 1日
評価実施構成員氏名	福田 静香 高橋 あずさ 田淵 和子 坂野 奈美 佐藤 愛香 三浦 美鈴		
記録者氏名	三浦 美鈴	記録年月日	平成19年 7月 31日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>認知症によって自立した生活が困難になった利用者様に対して地域の中でその人らしく生活することを支えるための事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>採用時研修で理念を理解してもらうよう指導し、毎月のカンファレンスの中で全員で斉唱して共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。全職員が理念を携帯し、日々のサービス提供に反映するように取り組んでいる。</p>		<p>「大切な命を元気で楽しい命に」を運営理念に掲げて 1、耳を傾けましょう 2、手を差しのべましょう 3、美味しく食べましょう 4、草花・音楽を楽しみましょう 5、希望を持って元気な皆様の命に感謝しましょうの心得を持ってサービスを提供している</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>年間4回配布している事業所の広報誌の中に理念を掲載して理解してもらうよう取り組んでいる。ホーム内のエントランスにも理念を明示している。</p>		<p>ホーム内行事で地域の方々に参加された時に、法人会長が挨拶の中で理念に触れている。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>運営推進会議や地域交流会の中でホームに気軽に立ち寄って頂くように声掛けしたり、ホーム駐車場にテーブル、ベンチを設置して近隣の方の休憩に利用してもらうように取り組んでいる。事業所行事(クリスマス会等)には、招待状を出す等積極的に取り組み、交流につなげている。</p>		<p>今後もホームから地域交流の場に積極的に参加して近隣の人達が気軽に立ち寄ってもらえるように継続して取り組みたい。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域住民の一員として町内会に加入している。町内行事の春の清掃、歩け歩け運動、ピアノコンサート、茶話会等に積極的に参加して交流に努めている。地区の中学校の餅つき大会、百人一首大会に参加し交流に努めている。</p>		<p>地区の子供達が気軽に遊びに来れるような取り組みをしたい。</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、町内会の総会に参加して認知症ケアの啓発に努めるよう取り組んでいる。又、事業所の広報誌の中に認知症の理解、ケアを記載して理解してもらうよう取り組んでいる。</p>		<p>地域住民やご家族を対象に認知症に関しての勉強会等に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全職員で行いサービスの質の向上に努めるよう取り組んでいる。外部評価の結果はカンファレンスで報告し、改善に向けての検討や実践につながるよう努めている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前回の会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について報告した後、事業所報告をして参加メンバーから意見・要望を受け双方向的な進行になるよう取り組んでいる。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当との連携はされていないため、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいない。		運営推進会議に市町村担当者が参加してもらうよう取り組んでいきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度についての研修に参加した後、内部研修を開いて学ぶ機会をもつようにしているが、活用できるような機会がないため支援はされていない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修を受けた後に内部研修の中で勉強会を実施している。又、カンファレンス、モニタリング、アセスメント検討の中で遵守に向けた取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明に十分な時間をとっている。又、事業所でできることできないこと、リスク、医療連携体制等を説明し、同意を得るように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様が意見・不満・苦情・希望等を出しやすいような場面を作っている。得た情報は申し送り、モニタリング等で検討して全職員で共有して支援するよう取り組んでいる。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム便りの中で行事、生活の様子を報告している。ご家族の来訪時のみではなく電話でも利用者様の状況を伝えている。毎月末に個人の出納帳と残金をご家族に確認してもらいサイン、捺印を頂いている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月発行のホーム便りに記載している。訪問時にはご家族に問いかけて話しやすい雰囲気を作るように心がけ、出された意見、苦情等はカンファレンスで話し合い、改善するように取り組んでいる。運営推進会議の中でのご家族の意見も同様に取り組んでいる。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別面談（コーチング）、カンファレンス等で職員の意見や提案を聞く場を設け、可能な限り反映させるように取り組んでいる。日々、コミュニケーションを図るように心がけて傾聴と受容の気持ちで取り組んでいる。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入れてないため夜間の対応や利用者様の状態に柔軟な対応ができるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者様やご家族との信頼関係を築くためにも、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしているが、異動や離職がやむを得ない場合は、利用者様にきちんと紹介し、ご家族にはホームたよりでお知らせしている。又、引継ぎには、十分な時間をかけて利用者様に受け入れてもらう配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修には順番で受講し多くの職員が参加できる機会を作り、受講後はカンファレンスで内部研修の講師になり職員に学んでもらう。パート職員は研修を受講していないがユニットカンファレンスに参加してもらっている。		外部研修受講後の報告書を全職員が閲覧できるように取組んでいきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区のグループホーム研修会には多くの職員が参加している。同系列のグループホームや他グループホームとの相互訪問等は取組んでいる。北海道認知症高齢者GH協議会に加入しておりスタッフ研修に職員を参加させる等サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	面談時以外にも日常、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。休憩時間と休憩場所を確保してストレスが軽減するための環境作りに取り組んでいる。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者はホームの行事に必ず参加し、頻繁に現場に来て利用者様とコミュニケーションをとるように心掛けている。2ヶ月毎に現場で運営会議を実施して職員が向上心を持って働けるように職能評価を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にご家族面談、ご本人を交えての面談を何回か行い、生活状態を把握できるように努め、利用者様やご家族の思いを受け止め、職員が利用者様に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の苦勞やこれまでの経緯について時間をかけて聞くように努め、ご家族が求めることを理解するため話し合うよう取組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談を受けた時、ご家族との面談、ご本人とご家族との面談、入居判定時等には、ご本人やご家族の思い、状況等を確認して改善に向けた支援の提案をする。又、場合によっては他のサービス機関につなげるよう取り組んでいる。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ご本人とご家族に見学してもらうことから始め、ご家族を交えての話し合いの場、他利用者様との団欒の場を設け場の雰囲気に徐々に馴染めるように又、ご本人が納得するように努めている。ホームでの生活に馴れて頂くことを優先し様子を見ながらサービスを開始している。</p>		<p>不安と寂しさを感じている利用者様には馴染むまでご家族に宿泊して頂いている場合もあり、状況に応じて今後も取り組んで生きたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>人生の先輩である利用者様から生活の中で、様々なこと(料理、畑仕事等)を教え、頂く場面を作ったり、歌、ゲーム、散歩等の余暇と一緒に過ごしながら支えあう関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日々の暮らしの出来事や生活の様子や職員の思いを細かく伝えることで情報共有に努め一緒に利用者様を支えていく関係を築くことが増えている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>外出や外泊でご家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事にご家族を誘って参加して頂いている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>月命日やお墓参りを続けている利用者様、馴染みの理美容院にご家族と行かれていたり、信仰宗教の集会に行っている方等個別性を重視して取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のお茶や食事の時は職員が入り一緒に会話を持つようにして利用者様同士の関係が円滑になるように努めている。利用者様同士の関係性について、情報を連携して全職員が共有できるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了された利用者様のお見舞いに行ったり、そのご家族がホームに遊びに来て、他利用者様と談話される場面があり関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で利用者様一人ひとりに声を掛けたり、言葉や表情、行動から汲みとり把握するように取り組んでいる。又、申し送り、カンファレンス等で本人本位に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にセンター方式A・Bシートをご家族に渡して生活歴や馴染みの暮らし方の情報を得ている。又、入居後もご本人やご家族、関係者等から来訪時等折に触れて聞いている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごしかたや生活のリズム、心身状態を記録に残すとともに申し送りの中でもきめ細かく伝達して情報を共有して、ご本人の全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様がその人らしく暮らせるようにご本人、ご家族の要望を反映させ、又、ご家族を交えてサービス担当者会議の意見交換、毎日のケアプラン実施表のチェック、3ヶ月毎のモニタリング、月2回のカンファレンスを介護支援専門員の監理のもとに、全職員で検討して介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じてご家族や利用者様の要望を取り入れ、毎日のケアプラン実施表の検討、モニタリング、アセスメントを含め全職員で検討見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化はまだ生じていない。		期間が終了する前に対応できない変化が生じた場合は終了する前であっても検討見直しを行いたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意しており、食事、水分量、排泄、睡眠、暮らしの様子、ご本人の言動、エピソード等を記録に残し、全職員が情報共有できるようにしている。毎日のケアプラン実施表を毎月のカンファレンスで検討して見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かし月1回の訪問診療、週1回の訪問看護を利用している。ご本人、ご家族の状況に応じて、その時々々の要望に応じて、通院同行や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域推進会議の中で、民生委員と意見交換しボランティアの協力を呼びかけているが実現されていない。区民センターの合唱サークルに参加している利用者が安心して楽しめるようご家族やサークル関係者と協力しながら支援している。		ボランティアが活用できるように取り組んでいきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者様の希望や状況に応じて、訪問理美容、クリーニングを利用するための支援をしている。本人の意向により馴染みの新聞の購読を楽しめるよう支援をしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで、周辺情報や支援に関する情報を交換して協働している。ご本人の意向や必要性がある成年後見制度の利用は対応する場面がまだない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用契約時に希望される利用者様、ご家族には事業所母体の病院のかかりつけ医が月1回訪問診療を利用している。利用前のかかりつけ医希望される方には基本的にはご家族が同行して受診しているが不可能な時は職員が代行する時もある。事業所の医療機関から週1回訪問看護を活用している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	事業所の医療機関は内科であるが主治医は認知症の理解等自己研鑽に励んでいる。精神科の専門医に受診している利用者様もいて生活の情報を提供したり、ご家族仲介の助言を受けて支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所の医療機関から月1回の訪問診療時に同行している看護師が、週1回訪問看護として利用者様の日常の健康管理や医療面での相談・助言・医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご本人の支援に関する情報を医療機関に提供したり、かかりつけ医からの診療情報書を提供して、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用契約時に、重度化した場合や終末期に対する対応指針を定め、事業所が対応できる最大のケアについて説明をしている。重度者や終末期の人を対象にしていなが、日常の健康管理や急変時に対応できるように、又、利用者様とご家族が安心できるように連携機関と話し合い、統一した支援をしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者様の気持ちを大切にしながら、ご家族や連携医療機関と話し合い、安心して終末期を過ごしていけるような移行に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者様が住み替え時は、これまでの暮らしが継続できるように生活環境・支援の内容、注意が必要なことについて情報を提供し、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>勉強会の中で職員が認知症介護、尊厳等についての意識向上を図ると共に、定期的にステップアップシステムの自己評価とコーチングを行い自己啓発に努め、プライバシーの確保に取り組んでいる。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様の個性性を重視して時間をかけて傾聴し、言葉だけではなく表情を読み取ったり、全職員で情報を共有して、わかる力に合わせた説明を行い、押し付けるようなことをしないように取り組んでいる。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、買い物や散歩、サークル活動等一人ひとりのペースを大切にしているが、全利用者様の希望にそって支援できない時もある。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>洋服の着替えは基本にご本人が決めているが、見守りや支援が必要な時は手伝うようにしている。外出や行事には化粧やおしゃれを楽しむよう支援している。ご本人が希望する理美容院を利用している方もいる。</p>		<p>母の日にはファンデーション、口紅、化粧ポーチをプレゼントしておしゃれを楽しむように支援している。外出しない日でも化粧をしている方もいる。今後もおしゃれを楽しむよう支援していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、盛り付け、配下膳、洗い物等一連の作業を利用者様の一人ひとりの力を活かしながら、職員も一緒に行っており、食事時間は、利用者様と職員が同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気を作るように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を好まれる利用者様には、行事、野外バーベキュー、希望時に楽しんでもらうよう支援し、禁酒の診断を受けている方にはノンアルコールビールを楽しんでもらうよう取り組んでいる。タバコ、好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しむ取り組みは実施できていない。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	センター方式Dシートを活用して、全職員で共有して排泄パターンを把握しトイレ誘導をすることで失禁を減らし、オムツを使用していた利用者様が下着に尿とりパットを使用するようになった。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に日曜日以外が入浴日で、時間帯は決まっているが、嫌がる利用者様には無理強いせず、希望する利用者様には入浴してもらっている。入浴には個別性を大切に時間をかけてコミュニケーションを十分にとり、安心して楽しんでもらうよう支援している。夜間の入浴は、夜勤者一人のため取り組んでいない。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時の眠剤の服用を中止して日中の活動を多くして生活のリズムを整えるように取り組んでいるが無理強いはいしていない。寝付けないう時は話を傾聴したり、温かい飲み物を飲んでもらったり等リラックスできるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ユニット毎で菜園作りをしており、食事作りやキムチ漬け等利用者様の経験や知恵を発揮する場面作りをしている。四季の自然に触れる外出やカラオケ、よさこい見物等利用者様と職員と一緒に楽しむよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談しながら少額のお金を所持している利用者様は、買い物ではご自分でお金を払っている。ご家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも、買い物時は、ご自分でお金を払うことができるよう支援している人もいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節や天気、楽しみごとに合わせて、外食、買い物、お弁当を持って戸外に出かけ、四季を感じてもらよう支援している。日々の散歩、ドライブも一人ひとりの希望や力に応じて出来る範囲で対応したいが取り組めない時もある。、歩行困難な利用者様には、車椅子を利用して参加して頂いている。		四季を楽しんでもらうために、春の花見、夏の百合が原、秋の紅葉狩りは、事業所の行事として2ユニットが合同で取り組んでいる。外出を希望されている利用者様に、業務の都合で実施できないことがないように取り組みたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりが行ってみたい普段行けない所に個別支援はしていないが、ご家族と相談して遠方の身内の葬式、法要、お墓参りや遠くの懐かしい場所等の外出、外泊は、ご家族と一緒に出かけられる支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や友人にご本人自ら電話を希望された時は、電話の子機を使用して自宅でゆっくり話されるよう支援している。手紙のやり取りをされている利用者様もおり、投函等の支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人、友人等が気軽に来やすい雰囲気作りに心がけ、訪問時間等は定めおらず、いつでも気軽に訪ねて来て頂けるように、又、一緒に食事をしたり、希望があれば一緒に入浴できる等の配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所のカンファレンスの中で、権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有意識づけをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が、外出しそうな様子の時は、止めないように心がけ、さりげない声掛けをして一緒について行く等、安全に配慮して、自由な暮らしを支えるようにしている。居室や日中玄関に鍵をかけないケアに取り組むようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、利用者様を見守りやすい位置にいて、利用者様の所在や様子を把握できるようにしている。夜間は、時間毎に見回り、夜勤者は居室が見渡せる、物音の聞き取れる場所で休む等安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、利用者様の状況に照らしながら、利用者様が保管管理しても安全なもの、保管管理が必要なもの、利用者様が使う時に注意が必要なもの等に分けて危険を防ぐ様取り組んでいる。		置き忘れのある利用者様の居室に針を置かず、必要時に手渡す等の支援を継続して取り組みたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のインシデント、アクシデントを記録し、カンファレンスで職員間で、ケーススタディを検討し共有認識を計っている。平行して、ご家族への説明と報告を行っている。又、日々の申し送りの中で、一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、未然に事故を防止するよう取り組んでいる。		義歯を装着しないで食事をする利用者様には、軟らかく調理したり、細かく刻んで誤嚥を防ぐ工夫をしたり、歩行不安定な利用者様には、傍らで常に見守る等個別性によって事故防止を未然に取り組んでいることを継続したい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	外部研修で急変時や事故発生時の対応を受講した後に、内部研修で勉強会を行い、急変時、異常の早期発見のマニュアルを作成しているが、実技による救急手当や蘇生術の研修は実施されていない。		行政機関や消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し、全職員が習得するように取り組んでいきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防関係の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っているが、全利用者様が参加しての取り組みは実施されていない。		地域の方々の協力を得て、全利用者様が避難訓練できるように取り組んでいきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	利用者様一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており、ご家族等に説明しているが、抑圧感のない自由な暮らしの大切さについてもご家族と話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの日常の状況を職員間は把握しており、食事、水分量、排泄等を毎日チェックして、体調や表情の変化に気づいた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけて情報を共有し、状況によっては医療機関の受診を対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	最新の処方箋を個人ファイル毎に管理して、職員が内容を把握できるようにしている。又、薬が変更になった時は、必ず経過観察情報を共有している。配薬時は薬包の名前を声に出してご本人に手渡し、正しく服用されているか確認をしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一日1000ml以上の水分摂取と食材に繊維質、乳製品等を取り入れ、便秘がちな入居者様には、味噌汁の中に糸寒天を入れる等できるだけ自然排便できるよう取り組んでいる。散歩、階段昇降、歩行運動、家事等身体を動かすような働きかけも行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きや義歯洗浄は、一人ひとりの口腔状態や力に応じて日常的に支援し、ケアプランにも取り入れている。出血や炎症、義歯の不具合は、日々チェックして状態に応じて歯科受診につなげている。拒否する利用者様には、毎食後の支援は実施していないが就寝前の支援のみは取り組むようにしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日チェックして記録に残し、全職員で情報を共有している。食事内容を写真に撮って、管理栄養士の専門的アドバイスをもらうようにしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症については、マニュアルを作成し全職員で予防・対策に努めている。インフルエンザ対策として利用者様(ご家族の同意有)、と職員はインフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用する等の予防・対策を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生管理マニュアルとチェック表を用いて、職員は、台所、調理用具等の衛生管理に努めている。新鮮で安全な食材を使用するために頻繁に買い物に出かけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	外玄関スロープにベンチやプランターを置いている。玄関先にもプランターを置いてガーデニングを楽しみ、駐車場には、利用者様とご家族が団欒できるように、又、近所の人の休憩場所になるように、パラソルテーブルとベンチを置いて庭先でお茶を楽しめるスペースを作っている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	食堂・居間・廊下の壁は、利用者様と一緒に四季の飾りつけを行ったり、玄関や食堂に生花を飾ったり、トイレの表示、浴室ののれん等安心して過ごせる工夫をしている。桜餅作り、鍋料理、バーベキュー等五感や季節感を意識的に取り入れ、食事の時には心地良い音楽を流す工夫をしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間・ワークスペースの2ヶ所に、ソファ、テーブル、テレビを置いて、写真や動物カレンダーを貼って居心地の良い空間を作り、利用者様が自由に過ごせる場所を作っている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には、ご本人やご家族の希望をできるだけ取り入れ、使い慣れたものや、馴染みのものを活かしてご本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	ホーム内2ヶ所に温度・湿度計を設置・管理しており適切な温度・湿度を保つようにしている。居室は、24時間換気が取り付けられている。トイレは、換気扇と消臭剤で悪臭が出ないような工夫をしている。各部屋の暖房は、個々に合わせて温度調整ができる等、利用者様の状況に応じてこまめに行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリーで、移動場所には手すりを設置し、安全で自立した生活を送れるようにしている。身障者用トイレを設置し、トイレ、浴室内にも手すりを設置して安全確保と自立への配慮をしている。又、台所は、オープンキッチンになっており、自由に出入りができるように取り組んでいる。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者様一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱、失敗を招くような環境や物品については検討して、状況に合わせた環境整備に努めている。</p>	<p>居室に表札を貼ったり、ドア前に馴染みのものを飾ったり、分りやすい目印等の工夫をして不安、混乱、失敗を防ぎ状況に合わせた環境整備に努めており、これからも取り組んでいきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>居間から出入りするバルコニーには、椅子、テーブルを置いて、畑の横には、パラソル付テーブルと椅子を置いて、畑の花や野菜を見ながらお茶を飲んだり、食事をしてくつろいだり、バルコニーからは、物干し台の洗濯物を取り入れたりできる等工夫をしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点 等を自由記載)

職員は、入居者様一人ひとりを理解しようと努力しています。町内会長をはじめ、地域の方との触れ合える場(行事、外出、サークル等)を設けるよう取り組んでいます。個別性を重視しながら、ご自分のペースで生活できるように支援しています。個別ケアを心がけ、その方らしい生活をして頂けるよう心がけています。その人一人ひとりのペースを大切に頂ける支援に心掛けています。個別ケアを心がけ、その方らしい生活をして頂くよう心がけています。常に、より良いケアができるよう話合っています。モニタリング、アセスメントはご家族に参加して頂いてケアプランに反映しています。ホーム行事には、ご家族も一緒に楽しんで頂くよう取り組んでいます。